

# 異文化の理解深める

## 鹿嶋 清真学園高・中で講演会



世界で活躍するグローバル人材を育てようと、鹿嶋市宮中の清真学園高・中（飯山克則校長）で国際理解講演会が開かれ、東京外国語大学大学院総合国際学研究院の岡田昭人教授が「これから求められる国際感覚、異文化についての理解」と題して話した。「VUCA（予測不可能な状況）」

「時代の今こそ求められるコミュニケーション力に力点を置いた講演に対し、参加した同中3年、同高1・2年の515人の生徒らは熱心に質問。異文化への理解を深めた。

岡田教授は、文化背景の異なる2人がコミュニケーションを取る場合、先入観がノイズ（雑音、邪魔）になると指摘。文化を氷山に例えて、見えていない部分（アイコンタクトや時間の感覚など）が、ミスを引き起こすと伝えた。

「国・文化・民族のコンテキスト（コミュニケーション）を取り巻く背景」の高低差を比較すると、察しのコミュニケーションを取る日本が最も高コンテキストになると説明。世界から見ると、日本が異文化であると強調した。また、非言語のコミュニケーションにも触れ、日本人は表情が乏しいため「自分の感情を言葉に乗せて話してほしい」と呼びかけた。

最後に、異文化コミュニケーションには不自由さがつきものだが、その苦しさにより絆が生まれると生徒にエールを送った。

参加した、同高3年で生徒会長長の尾田葵さん(17)は「外国の人とのコミュニケーションは難しい。英語に頼らず、表情を豊かに交流したい」と話した。同年で副会長の鳥啓祐さん(17)は「視野が広がった。目を見るなどコミュニケーションの取り方を工夫したい」と話した。

同講演は、同校が指定を受けているスーパーサイエンスハイスクール(S・S・H)の国際プログラムの一環で20日に開いた。

(三上山明里)